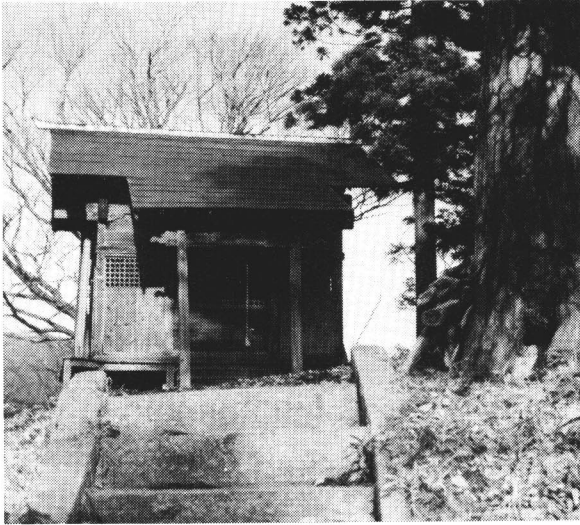


## 愛宕神社

月見橋の西、三百段近い急な石段を昇りつめると



愛宕神社全景

愛宕神社があります。祭神は可遇突智命で、以前は愛宕権現と称し、慶長のころは下糠田村築館字上関分でありましたが、明治四年築館を月館と改称、同七年の地祖改正により御代田に編入され愛宕大権現を愛宕神社と改めました。明治十一年に社殿を造営して今日に至っています。

信達一統誌には「本尊將軍地藏尊」と記され、さらに、將軍地藏尊は修羅鬪争の瞋恚を調伏し太平静謐を加え給う云々との説明がつけてあるので、当地方にあつての重要な社であつたことが伺えます。愛宕権現の本地仏は將軍地藏とされるので本尊となつたものと考えられます。文化の初期までは別当正光院清水寺清音坊法印がいて全盛を極めたといひます。現在、二間半四面の社殿はたいへん荒廢してあります。造作から住時の盛況が偲べれます。なお、この地は殿上館の一角にあつて物見の役割を果たしていたとも考えられます。

境内の南端にある堂は「観音堂」で、祀られてい